

キリストと私たち

(ローマ6・1〜14)

一、ローマ人への手紙6章は？

聖書を何度か読んだ方であるなら、ローマ人への手紙6章と聞けば、あるいはこの箇所を開くなら、「そうそう、水のバプテスマについて書かれている箇所だ」と思い起こします。たしかに6章には水のバプテスマの意味が書かれています。ですがパウロは、始めから水のバプテスマの意味を語ろうとしたのではありません。

パウロは、すべての人は神の前に罪ある状態であり、すなわち的外れの状態であり、イエス・キリストを信じることによつてのみ、罪に囚われている状態、すなわち神の御意思から外れている状態から救われる、と説きました。

そういう流れの中で語りました。5章20節です。〈律法が入って来たのは、違反が増し加わるためです。しかし、罪の増し加わるころには、恵みも満ちあふれました。〉と。すると、不信者の語る声が、思いの中に聞こえてきたようです。それが6章1節の、〈それでは、どういふことになりますか。恵みが増し加わるために、私たちは罪の中にとどまらねばどうしようか。〉です。実際に、そのような屁理屈(へりくこ)を言う人がいたのであります。パウロは、そういう

屁理屈屋に対して語るといふよりも、屁理屈屋の語る屁理屈を採り上げて、福音とは何かを解き明かしています。

それが、2節です。〈絶対にそんなことはありません。罪に対して死んだ私たちが、どうして、なおもその中に生きていられるでしょう。〉と。そして3節以降

水のバプテスマの意味が語られています。パウロによれば、水のバプテスマは単に入信の儀式ではありません。水のバプテスマを受けることにより、イエス・キリストと継ぎ合わされる、と説きました。すなわち、キリストと共に死に、キリストと共によみがえると解き明かしました。キリストと共に死ぬとは、キリストと共に罪が死んだという意味です。キリストと共によみがえるとは、キリストと共に新しい命に生かされることです。これが、信仰生活です。

二、水のバプテスマの意味

そこで、3節以降に語られている水のバプテスマ、すなわち洗礼式についてパウロが語った教えに耳を傾けてみたいと思います。

キリスト教会が誕生して以来、当初よりなされてきた儀式が二つありました。一つは、聖餐式です。もう一つは洗礼式でした。洗礼式、すなわち、水のバプテスマは教会への入会儀式でした。なぜに、水に浸かるという儀式が行われたのでしょうか。実は、水に浸るのは

異教徒がユダヤ教に改宗する際に受ける儀式でした。その際に、改宗は次のようにしてなされました。男子なら割礼を受け、男子も女子もユダヤ教に入信する洗礼を受け、エルサレムの神殿に詣で、改宗が完成しました。そういう背景がありましたので、バプテスマのヨ

ハネが悔い改めの水のバプテスマを説いたとき、当時のユダヤ人たちは違和感を覚えませんでした。そして教会が誕生した後、水のバプテスマはイエスをキリストと信じる信仰告白の儀式となりました。使徒の働きに、使徒ペテロが語った言葉が書かれています。〈使徒2・37〜38人々はこれを聞いて心を刺され、ペテロとほかの使徒たちに、「兄弟たち。私たちはどうしたらよいでしょうか」と言った。そこでペテロは彼らに答えた。「悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によつてバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。〉と。洗礼は、イエス・キリストを信じたことを言い表し、教会に入会する儀式となりました。

ですが、それだけではありません。3節をご覧ください。〈それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたのではありませんか。〉とあります。ここに〈キリスト・イエスにつくバ

プテスマ〉とあります。口語訳は〈キリスト・イエスにあずかるバプテスマ〉、新共同訳は〈キリスト・イエスに結ばれるために洗礼を〉、新改訳2017は〈キリスト・イエスにつくバプテスマ〉ですが、元の意味は「キリスト・イエスの中に浸される」です。イエス・キリストを信じ、洗礼なる儀式に与るとき、その人はイエス・キリストの中に浸されます。すると、どうなるでしょうか。主イエスと信じる者が強く結び合わされます。4節で語られているように。〈私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによつて、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によつて死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあつて新しい歩みをするためです。〉と。

こういうわけで、イエス・キリストを信じて、水のバプテスマを受けるなら、再び罪に支配されることはありません。これが、パウロの解き明かした水のバプテスマ、すなわち洗礼の意味です。そこで、次のように語っています。11節です。〈このように、あなたがたも、自分分は罪に対しては死んだ者であり、神に対してはキリスト・イエスにあつて生きた者だと、思いなさい。〉と。

イエス・キリストを、神が遣わされた救い主であり、神御自身であると信じる人は幸いです。